

坂出市立病院

手指衛生遵守率向上に取り組んで

○坂上美紀 佐古響子 遠山三友紀

病院紹介



平成26年12月1日開院
一般病床:194床(新型インフルエンザ病床10床含)
HCU病床:16床
入院基本料7:1

旧病院



旧病院

昭和22年 開設
 一般病床:216床
 入院基本料7:1
 平均在院日数:13.73日

H25年度

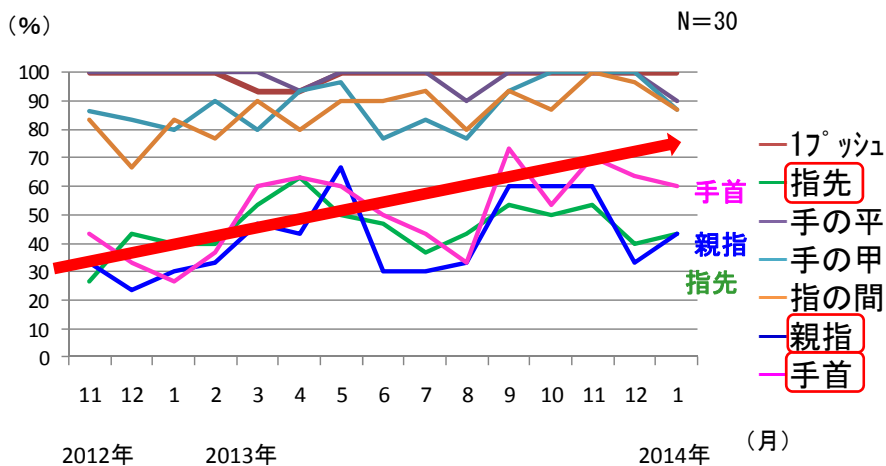
<特徴>

- 1病棟:70床
- 大部屋は手洗い設備なし(詰め所で手洗い)
- 手指消毒薬は、病室前・看護師ワゴンに設置
- 血液内科, 呼吸器, 循環器, 混合内科病棟
- ICUなし. 一般病棟で, 呼吸器管理, IABP, 血液透析など実施.

坂出市立病院ICTの歩み ~手指衛生に関する取り組み~

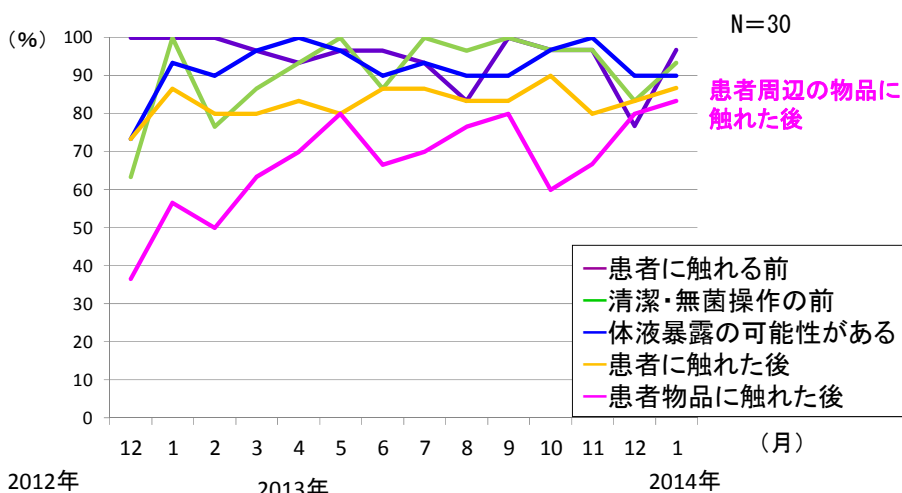


結果. 手指消毒手技まとめ(2011年～)



手首・親指・指先は不十分
 サーベイランス開始当初に比べ改善傾向

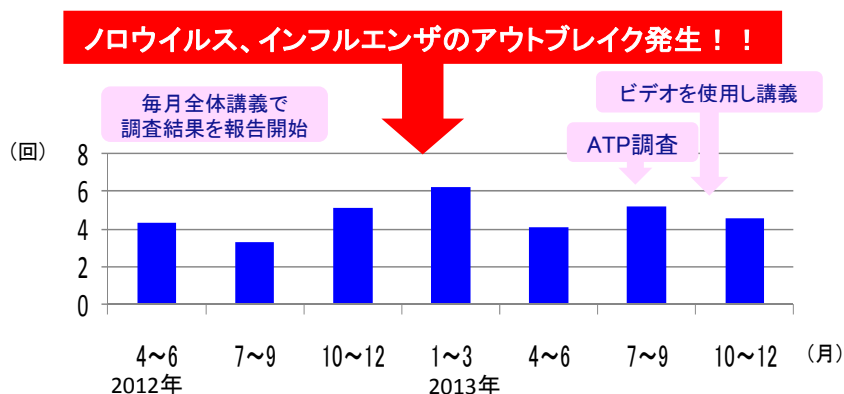
結果: 手指消毒タイミング施行率まとめ(2012年～)



タイミング施行率も上昇傾向にはあるが、
 患者環境に触れたあとは不十分

結果:手指消毒剤使用量のまとめ(2013年～) (1日1患者あたりの推定使用回数)

$$\text{手指衛生回数} = \frac{\text{手指消毒剤払出量(ml)}}{\text{1回の使用量(1ml)} \times \text{延べ入院患者数}}$$



アウトブレイク時は6回と上昇するも継続せず
 その後も4回程度と少ない状態が継続

当院の手指消毒薬(AHR)使用量 (介入当初・目標値)

	介入当初 (2014/3)	目標値
AHR (1000patient-days)	5.0L	15.0L

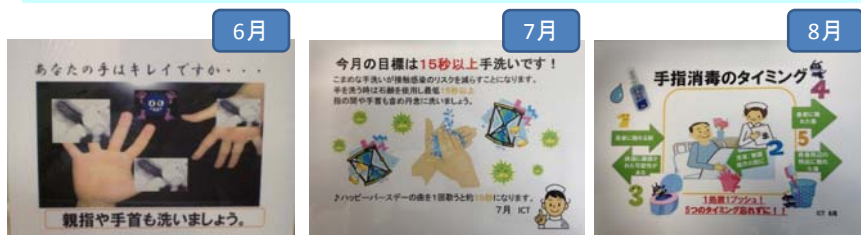
結果(2014/11/30)

14.0L/1,000patient-daysまで上昇

平成26年度目標：
 「手指消毒の必要な場面を職員に知ってもらう」

介入名	実施時期	内容
①ポスター	6月	手指衛生に関するポスター作成（毎月）
②集中講義 （全職員参加）	8月	テーマ：「5つのタイミング」 職員出演の動画作成，研修会実施
③アンケート	8月	手指消毒場面に関するアンケート実施
④直接観察法	8月	iPad手指衛生観察アプリ導入開始
ハンドハイジーンチャレンジ 中間発表（大阪会場）		
⑤手指消毒薬 使用量算出（2週間毎）	9月	手指消毒薬に残量ラインを引き，視覚的アピール。手指消毒薬使用量算出
⑥院内中間報告会	10月	全職員対象に中間報告会実施
⑦プロテクトX2導入	11月	皮膚保護剤を導入

介入①手指衛生ポスター作成・掲示



- リンクナースが当番制で毎月ポスターを作成
- 手洗い場付近に掲示



介入①中間報告後（テーマを絞って）

11月



12月

体液に暴露された可能性のある場合



後半は、（11月～）

「**体液に暴露された可能性のある場所**」や「**患者周辺の物品に触れた後**」など、不備が多い場面を重点的掲示

介入②H26年度全職員参加の集中講義実施

	日付	時間	担当	参加人数
①	8/11	17:30	ICD	42
②	8/15	12:40	LN	40
③	8/19	12:40	ICN	35
④	8/25	17:30	LN	24
⑤	8/26	12:30	LN	22
⑥	9/5	17:30	ICN	12
⑦	9/11	17:30	LN	10
⑧	9/22	看護補助者	ICN	25

全職員の
94%が参加



この場面では、最低、何回の手指消毒が必要でしょうか

2014年は「**手指消毒が必要なタイミング**」がテーマ

- 全職員参加の全体講義
- 同一講義を8回繰り返し実施
- 「**5つのタイミング**」をテーマに職員出演の動画作成
- 講義終了後にはメールテストで評価

メールテストの流れ

感染対策の基本的事項を4択問題で送信

6. 手洗い・手指消毒について
 ア. 菌にこぼれた血液をペーパータオルで清掃する場合、素手でもよいが、後で必ず洗いしなければならない。
 イ. 手に血液が付着した場合、ただちに速乾性アルコール製剤で手指消毒が必要である。
 ウ. どのような患者でも、接触する前後には手指消毒することが望ましい。
 エ. 手袋を装着していた場合には、それを外したあとは、手洗いや手指消毒の必要はない。

7. 体液飛沫について

10/13 ICT 最終です。10部報告

10/13 米物品中材 (請求用) 中央材料部よりお知らせ (呼吸器の回路など)
 10/13 中山愛津子 (株 査) 平塚10部上半期血液製剤使用状況報告
 10/13 水本美智代 (二子イ) 入院診療計画書未完

後日、詳細な解説を記載、数日にわけ、一問ずつ掲示

10. その他
 ア. 結核患者は原則的に隔圧室に收容する。
 イ. 結核患者の部屋に入る時は、エプロンも装着しなければならない。
 ウ. 手袋に血液が付着した場合、手袋装着したまま洗ってアルコール消毒をする。
 エ. MRSに感染症で患者隔離した場合、その隔離解除の基準は、細菌検査で3回陰性

10部の正解はエです。ちょっとこれは難しかったですね。
 ＊結核患者は「隔圧室」ではなく「陰圧室」に收容してください。もしも部屋が隔圧室の空気は廊下側へ出て行きます。すると、結核菌は部屋から廊下へ出て行って廊下に出ていく。廊下側は圧力が高いので、廊下側の空気は部屋に流れ込んでくる。当院では陰圧室が2棟に設置されています。
 ＊結核は接触感染ではありません。空気感染です。エプロンは白衣が汚染される場合があります。

全部署から解答が届く

部署	氏名	職名	Re: 返信日時	10部報告日時
内科	林 哲子	栄養士	Re: 返信日時	平成18/09/21(木) 10:52
内科	菊池 史	医師	Re: 返信日時	平成18/09/21(木) 10:51
内科	室屋 律子	第一病棟	Re: 返信日時	平成18/09/21(木) 10:51
内科	石原 昭治	看護	Re: 返信日時	平成18/09/21(木) 10:49
内科	宮崎 幸太郎	看護	Re: 返信日時	平成18/09/21(木) 10:47
内科	宮崎 幸太郎	看護	Re: 返信日時	平成18/09/21(木) 10:47

送られてきたメールのひとつひとつへ個別にコメントを加えて解説を返信

やはり、主任ですね!! 全問正解です。

この試験の重要なポイントは、手袋を外したら手指消毒もしくは手洗いを必ず、することです。

2番、3番、4番が違ってました。惜しかったですねー。

2番は正解はウです。
 結核は飛沫感染というより「飛沫核感染」です。飛沫よりさらに小さい「飛沫核」になって、空気を介して伝播するから「飛沫核」を吸い込む必要があります。

お礼の返信メールを頂きました

件名: 第1回 ICT
 (まめてもらっちゃった。)

件名: Re:Re:Re:第1回 ICT
 やったー! 有難うございます!!

件名: Re:Re:Re:第1回 ICT
 こちらこそ、ありがとうございます。
 お手数かけて申し訳ありませんでした。

H26年度院内メールテスト参加率

解答を送信していない職員の氏名を院内メールに公表

期限は9月30日です。これを過ぎると、院長室にて試験をさせていただきますので、よろしくお願ひします。

不届出者 (取柄略)

医師: 田中 桂、菊池 史、小原 大工原、田中 谷、中村 原、藤田 三上、松本

医員: 山田 山、山田 佳穂、清谷 清、田中 田、中野 貴、松本 博、松本 博

看護師: 山田 佳穂、田中 田、中野 貴、中野 貴、中野 貴、中野 貴

検査: 市川 高木、中野 中野、松本 松本、高橋 三木、山下 山田

その他: 市川 高木、中野 中野、松本 松本、高橋 三木、山下 山田

期限を過ぎると、院長室で試験を受けてもらいます♪

育児休暇中職員にも郵送でメールテスト実施
 H26年度メールテスト参加率: 96%
 (不参加: 内科医師2名)

部署	参加率 (%)
医師	90
第1病棟	100
第2病棟	100
第3病棟	100
外来	100
内視鏡	100
すこやか	100
中材	100
薬局	100
検査	100
放射線科	100
理学	100
検査	100
庶務課	100
庶務課	100
二子イ	100
二子イ	100
看護補助者	100
学生	100
育休中	100

H26年度 メールテスト不参加2名

難しいわ～
問題多いわ～
字が見えんわ～

後日、院長室でテストを行いました

情けない…



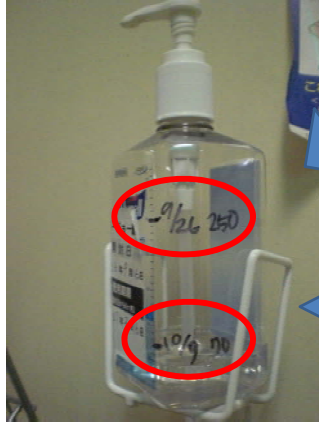
文句の多い総合内科部長.
ICNが問題を読み上げ,
10問全問正解♪

な, なんと!
ICDがメールテスト不参加とは…
そして1問間違えるとは…

介入④直接観察法を導入(H26.8月～)



介入⑤2週間毎に手指消毒薬使用量算出



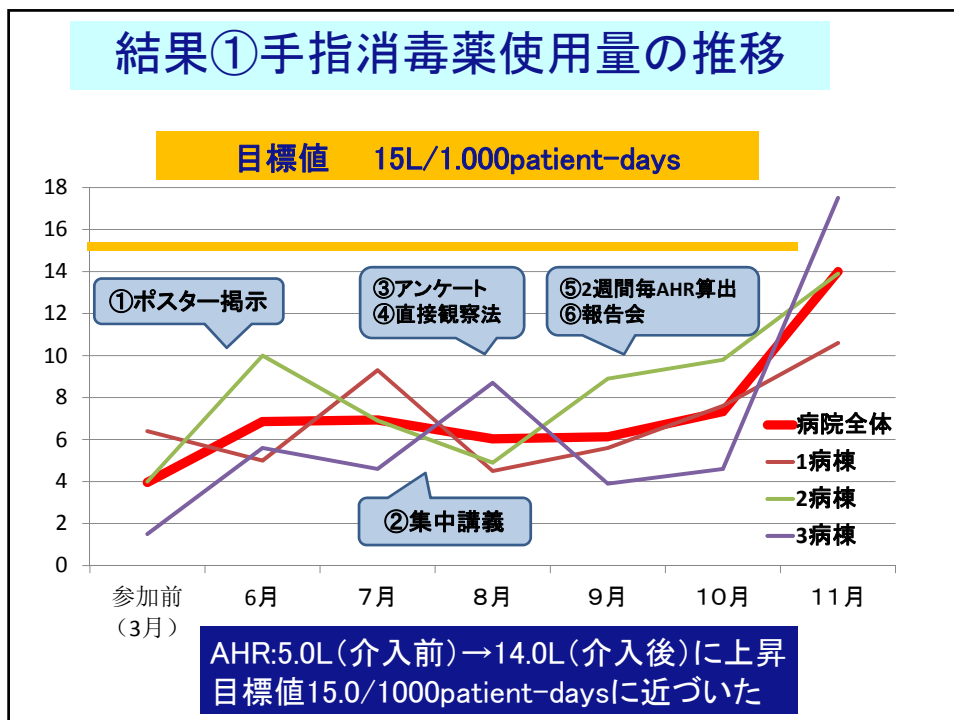
9/26～
消毒薬に残量を記入
2週間毎にチェック

目的

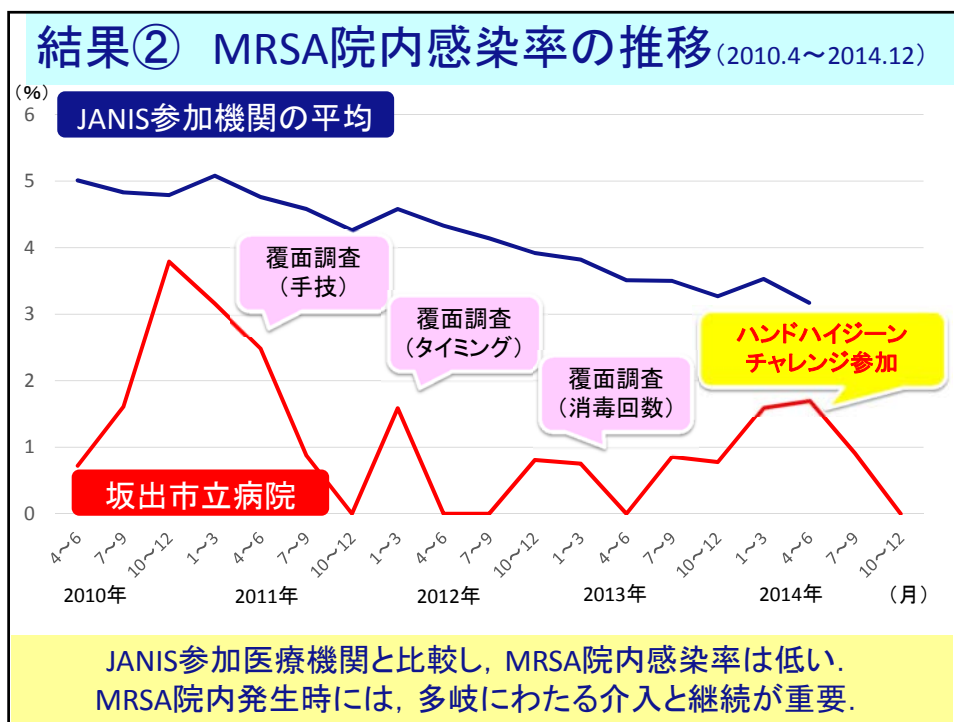
- 視覚的に残量がわかるように
- 設置場所による使用頻度の違いを把握する

結果

結果① 手指消毒薬使用量の推移



結果② MRSA院内感染率の推移 (2010.4~2014.12)



結果③ 直接観察法(5つのタイミング)

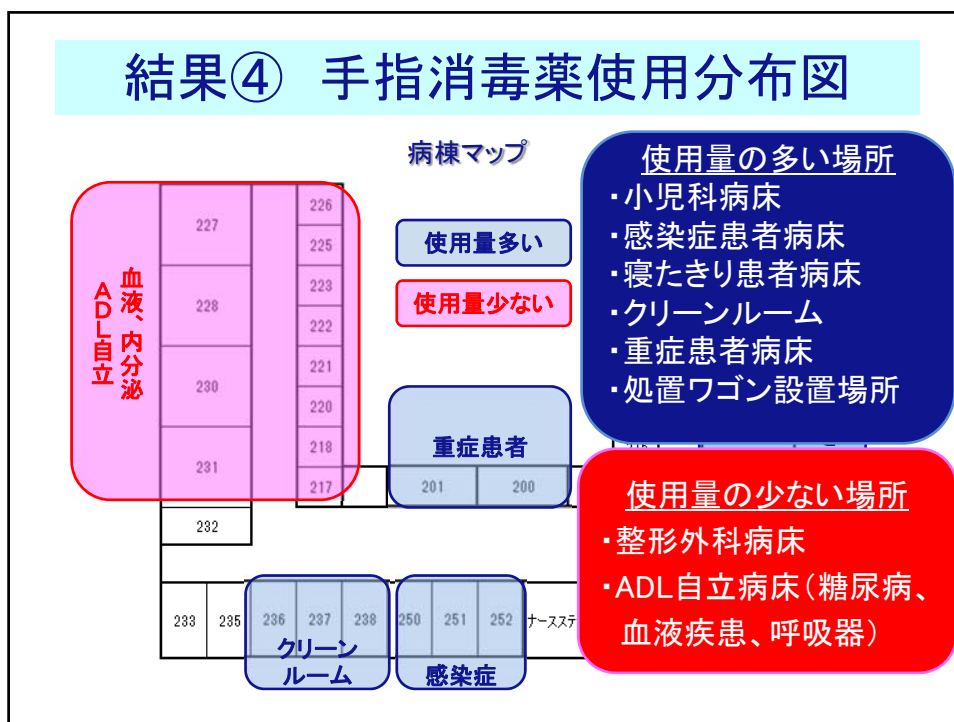


- 介入当初は、全ての場面において、「使用していない」と判定した件数が多い、特に「体液暴露の場合」や「患者周辺に触れた後」などが不十分であった。
- 介入後半は、手指消毒を行う場面は増えたが、片手で消毒するなど、十分量使用できていないことがわかった。

結果④ 手指消毒薬使用分布図



結果④ 手指消毒薬使用分布図



まとめ

- ・ ハンドハイジーンチャレンジプログラムに参加して、他施設やアドバイザーより、多くのことを学び、自施設に取り入れることで、手指消毒薬の使用が増加した
- ・ 手指消毒は感染管理の基本であり、今後も、サーベイランスと介入の継続を要する

